

令和4年度学校関係者評価委員会議事録

学校法人常松学園札幌工科専門学校
学校関係者評価委員会

議題

令和4年度の実施状況報告と令和5年度の改善方針

- 開催日時 令和5年3月28日(火) 10:00～11:00
- 場 所 札幌工科専門学校 第2校舎 会議室
- 委 員 <出席>
奥内 尚史 一般社団法人札幌造園協会 理事長(業界関係者)
下原 英一 ㈱イーエス総合研究所 取締役執行役員業務企画部長
(企業等委員)
松本 勲 モエレ町内会員
三上 敬司 校長
大坂 道明 環境土木工学科長
岩瀬 聡 造園緑地科長
阿部 峰雄 測量情報科長 兼 環境土木・造園施工管理科長
<オブザーバー>
常松 哲 理事長
伊藤 幸一 理事
一色 博介 土木系主任
<欠席>
山口 修二 一般社団法人札幌建設業協会 専務理事兼事務局長(業界関係者)
嘉屋 幸浩 ㈱園建 代表取締役(企業等委員)
古城 学 常松学園札幌工科専門学校同窓会長
- 資 料 令和4年度 学校の取り組み状況に関する報告

※学校関係者評価委員会

文科省の示す「学校評価ガイドライン」に則り、下記の項目について全教職員による学校自己評価を実施している。学校関係者評価委員会は、その自己評価結果を評価し、自己評価結果の客観性・透明性を高めることや、専修学校と密接に関係する者の理解促進、連携協力による学校運営の改善を図ること等を目的として行う。

- | | | |
|---------------|---------|-----------|
| I 教育理念・目標 | II 学校運営 | III 教育活動 |
| IV 学修成果 | V 学生支援 | VI 教育環境 |
| VII 学生の受け入れ募集 | VIII 財務 | IX 法令等の遵守 |

令和4年度 学校の取り組み状況に関する報告

I 教育理念・目標

<令和4年度前期の報告と令和4年度後期の改善方針>

教育理念 少人数制による親切・丁寧な分かり易い・わかるまでの教育

教育目標 ○基礎学力の向上を図る ○基礎的な専門知識と技術の習得 ○素直な心と良き社会人となるためのマナーの涵養

造園緑地科はAO入学（書類選考のみ）を導入して学生を集めているが、意欲はあるものの学力が充分でない学生も入学している。現在、AO入学者には入学前教育として数学Ⅰの問題を課しているが、今後は国語力についても事前学習が必要であると感じている。

一方、環境土木工学科は試験（数学・作文・面接）を課して入学者を選考している。技術者を育成するためには、基準以上の数学力が必要とされるからだ。しかし、学生数を確保しなければならない面もあり、一部基準に達しない受験者に対して入学前教育を課し入学を認めるケースもある。

学科により教育目標に差はあるが、学力不振の学生であっても丁寧に教育し、質を高めて社会へ送り出したいと考えている。

委員の意見

（下原）離職率を低下させるために基礎学力を高めるとあるが、企業委託生の離職率は把握しているか？離職の理由は？

（三上）企業委託生も20～30%程度は3年以内に離職していると聞いている。人間関係、職場環境、能力的に仕事についていけないなど、様々な理由がある。

（下原）企業から学校への期待は大きいと思うが、委託生の中でも意欲が低く授業への取り組み姿勢が不良な学生がいるとも聞いている。企業が学校に送りっぱなしというのも良くないが、学校から企業へ定期的な報告はあるのか？入学時の意欲や委託生の自覚がだんだん薄れているのではないか。何か工夫できないか？

（三上）定期試験の成績を報告し、問題のある学生については担任から適時連絡を入れている。学校・企業・保護者の三位一体で指導していくようにしている。

（大坂）夏の企業実習期間に企業を訪問して、企業実習での指導内容の充実について依頼している。

（岩瀬）造園緑地科の学生は、意欲はあるが一部読み書きが不得手な学生が入っている。また、幅広く造園を学べるカリキュラムとしているが、学生は勉強していくと公務員やコンサルの方を目指し、造園・造園施工の道を選ぶ学生が少ない。

<令和4年度後期の報告と令和5年度の改善方針>

1 報告

令和4年度卒業生状況（表-1）

単位：人

| 学科 | 入学者 | | | 中退者 | 卒業者 | 就職者 | 2級施工管理 | | その他資格合格者 | 過去3年間離職者 |
|----|-----|--------------|---|-----|-----|-----|--------|------|---------------------|--------------|
| | 定員 | 入学者 | 入学区分 | | | | 1次合格者 | 割合 | | |
| 土木 | 25 | 21 | 一般 14 社会人 7 | 2 | 19 | 18 | 1級土木 1 | — | 測量士補 19 | 10/75 13% |
| | | | | | | | 土木 18 | 100% | | |
| | | | | | | | 造園 1 | 5% | | |
| 造園 | 15 | 17 | 一般 1 AO12 学校推薦 1 社会人 1 長期高度 2 | 2 | 15 | 14 | 土木 9 | 60% | 技術士補 (森林) 2 | 3/22 13% |
| | | | | | | | 造園 15 | 100% | | |
| 測量 | 15 | 18 | 一般 1 社会人 1 企業 16 | 0 | 18 | 18 | なし | — | 測量士 1 測量士補 17 | 4/54 7% |
| 施工 | 15 | 23 復学 1 舍 | 企業 23 | 0 | 23 | 23 | 土木 21 | 91% | | 8/77 10% |
| | | | | | | | 造園 2 | 9% | | |

(表-2) 別紙

造園建設への就職希望者がいない。

2 改善方針

ポストコロナに向けて IT 化を進めるが、教育の主体は学校における対面授業を主とし、遠隔授業に関してはあくまでも災害等緊急時や外部交流などに使用する。

学科により教育目標①②③に対し目標達成のための課題に違いがある。

①基礎学力の向上を図る ②基礎的な専門知識と技術の習得 ③素直な心と良き社会人となるためのマナーの涵養

各クラスに合わせた教育目標の達成のため主任制とし、業務及び専門を理解したクラス指導担任がクラス毎に異なる課題に対応し、学生募集から就職指導まで一貫として教育指導を行う体制にする。学校業務については IT 化をすすめ、協働で効率的に行う体制とする。

造園緑地科では1年生の早い段階から、造園建設にかかわる現場など業務に関する講演などを実施し、施工管理技士の活躍できる仕事や企業などの理解を促す。

委員の意見

(下原) 中退者4名の理由は？

(三上) 土木は授業料未払いで留年、学力不振で留年(測量の課題未提出→補講→遅刻2回→留年)、造園は学力不振(数学)、進路変更だった。

(下原) 施工管理科の2級土木施工管理が100%でなかった理由は？

(三上) 本人の努力不足が伺える。

(下原) 企業側への説明は？企業は学校に期待しているので、不合格の場合のフォローをきちんとする必要がある。企業側にも、最低限の学力と本人の努力が必要であることを理解して委託生を送ってもらう必要がある。

(三上) 担任を通して連絡している。

II 学校運営

<令和4年度前期の報告と令和4年度後期の改善方針>

・令和5年度入学生の出願・合格状況(11月)

| | 応募総数 | ① 合格 | | | | | | | ② 不合格 | ③ 受験辞退・欠席 | ④ 合格辞退 | 入学 |
|----|------|------|------|-------|-----|------|----|----|-------|-----------|--------|----|
| | | 一般 | 学校推薦 | 指定校推薦 | 社会人 | 企業委託 | AO | 合計 | | | | |
| 土木 | 15 | 13 | | | | 1 | | 14 | 1 | | | |
| 造園 | 5 | | 1 | 2 | | | 2 | 5 | | | | |
| 測量 | 17 | | | | | 15 | | 15 | 1 | | | |
| 施工 | 22 | 1 | | | 1 | 20 | | 22 | | | | |
| 合計 | 59 | 14 | 1 | 2 | 1 | 36 | 2 | 56 | 2 | 0 | 0 | |

1年制学科への企業委託生の出願が順調であり、定員に達したため12月の入学試験で締め切る予定である。

環境土木工学科と造園緑地科は、体験入学に参加して出願が見込まれていた方はほぼ出願された。今後、出願見込みA・Bランク(体験入学参加または直近で資料請求や問合せがあった)の者が環境土木工学科10名程度、造園緑地科5名程度いる。大学や公務員試験の結果により動きがあると予測している。

また、造園系の企業委託生獲得を狙い、道内と東北の関係企業にDMを送付している。これまで2社ほど反応があった。同時に、これから3者面談が行われる高校2年生へのアプローチを予定している。

委員の意見

(下原) 今年高校訪問はできていたのか？

(三上) 春は入学相談員が道内各地を訪問、秋は教職員が札幌近郊の高校を訪問した。

(下原) 体験入学の状況は？市内の学校が多いのか？

(三上) 夏以降は例年より多く各回10名程度の参加がある。単独での参加、保護者同伴、企業同伴など様々である。道内各地から参加している。

(下原) 入口の人数が増えることは入学者の増加に期待できる。

(岩瀬) 体験に参加すると受験料免除、AOエントリーの許可の特典がある。体験参加者は出願率が高く、来校する方は最終確認の意味合いが強い。その前の段階でより多数の高校生に興味を持ってもらう必要がある。

(大坂) 企業委託生の体験参加が増えているが、2年制希望の学生は例年並みの印象。

(下原) 日本工学院公務員コースは人が集まっていると聞く。札幌工科も公務員の実績を上げてPRしていると思うが、学生獲得に繋がらない原因は？

(三上・岩瀬) 本校は技術教育を行う中で、進路の選択肢に公務員があるという形。公務員の学校としてのPRが強くないのは確かである。本校は大卒区分でも合格しているところが特徴として他校と差別化できているが、高校教員や高校生にまだ伝わっていない。

(下原) 札幌工科の学生は、大卒と高卒公務員の違いを理解しているのか？

(三上) 1年生の希望者に対して大卒公務員対策を実施しており、理解を促進している。

(阿部) 土木2年生19名中18名が就職希望で、11名が公務員。民間にもバランスよく行っている。家計により自費での進学をあきらめ、企業からの入学を選ぶ高校生もいる。

(岩瀬) 投資にける感覚が変わっている。2年制に入り社会で評価されるより、一年でも必要な資格が取ればよいという価値観である。委託生で入学しても、勉強をしていると周囲の同級生が公務員に進む姿を見て少し悩みが出ている。

<令和4年度後期の報告と令和5年度の改善方針>

1 報告

令和4年度入学生の合格状況（表-3）

| | 応募総数 | ① 合格 | | | | | | ② 不合格 | ③ 受験辞退・欠席 | ④ 合格辞退 | 入学 | |
|----|------|------|------|-------|-----|------|----|-------|-----------|--------|----|----|
| | | 一般 | 学校推薦 | 指定校推薦 | 社会人 | 企業委託 | AO | | | | | 合計 |
| 土木 | 19 | 9 | | | 4 | 4 | | 17 | | 2 | | 17 |
| 造園 | 9 | | | 3 | 1 | | 5 | 9 | | | 1 | 8 |
| 測量 | 20 | 1 | | | 1 | 17 | | 19 | 1 | | 1 | 18 |
| 施工 | 23 | | | | | 22 | | 22 | 1 | | | 22 |
| 合計 | 71 | 10 | 0 | 3 | 6 | 43 | | 66 | 2 | 2 | 2 | 65 |

令和5年度入学生の合格状況（表-4）

| | 応募総数 | ① 合格 | | | | | | ② 不合格 | ③ 受験辞退・欠席 | ④ 合格辞退 | 入学 | |
|----|------|------|------|-------|-----|------|----|-------|-----------|--------|----|----|
| | | 一般 | 学校推薦 | 指定校推薦 | 社会人 | 企業委託 | AO | | | | | 合計 |
| 土木 | 23 | 18 | | | 2 | 2 | | 22 | 1 | | 3 | 19 |
| 造園 | 9 | 1 | 1 | 2 | | | 5 | 9 | | | | 9 |
| 測量 | 22 | | | | | 21 | | 21 | 1 | | | 21 |
| 施工 | 24 | 1 | | | 1 | 22 | | 24 | | | | 24 |
| 合計 | 78 | 20 | 1 | 2 | 3 | 45 | 5 | 76 | 2 | 0 | 3 | 73 |

2 改善方針

- 1) 1年制施工管理科は全てが土木コースを希望しており造園コースの希望者はいない。造園建設企業へのアンケートによると、工事受注の観点から土木工事を主体とした造園施工管理技士が必要であることから、造園コースでは土木工事を中心に造園工事に関する科目を設定し、在学中に2級土木および造園施工管理技術検定1次試験の取得が可能なカリキュラムの編成を行い、造園コースへの企業委託生を募る。
- 2) ポストコロナとして学校行事の教育的意味を再確認し、行事实施体制をつくり実施する。
- 3) 教育活動以外で業務についてもIT化により効率を計り、教育活動に注力できる体制を作る。

委員の意見

(下原) 1年制で造園施工1次検定は今までやっていなかったということか？

(三上) 施工管理科は環境土木コースと造園コースを設置しており、造園コースは造園を主体とするカリキュラムになっているが、入学者が少ない。造園系の企業であっても、工事の発注・受注要件を勘案すると、環境土木コースの内容の方が必要との話である。

(岩瀬) 数年前に造園工事の発注方式が変わって、土木工事の中に造園を付帯する形となっている。そのため、企業は土木を主体として勉強させたいと考えている。造園コースの内容を企業の求める形にしたい。

Ⅲ 教育活動

<令和4年度前期の報告と令和4年度後期の改善方針>

①イーエス総合研究所のネットワーク環境整備と共に、令和6年度の1人1台ノートパソコン保有に向けWi-Fi環境、教材のデジタル化、教務系ICTを整える構想をしている。

②令和4年度はこれまで学生17名のコロナ陽性が出たが、クラスターは発生していない。対面授業を基本とし、緊急的にはオンライン授業を併用している。

③今年度は体育大会、インターンシップ、現場見学会を実施することができた。一般学生へは就職面接指導の中で勤労観を高め、社会とのギャップを埋める指導を行っている。コロナの影響で学園祭を中止したが、今後は行事を丁寧に行える体制を整え学校生活の充実を図ることで、学生の自主性や協働の精神を涵養したい。

④造園の若手教員が1名退職した。その後、高校教諭OBを採用することができたが、将来の担い手確保のために更に求人を出している。

委員の意見

(三上) PC導入について、当初は令和5年度よりスタートを希望していたが、準備のためもう1年先送りにする。Wi-Fi設備について業者と打ち合わせている。

(松本) PCを利用した授業は専門学校、大学では主流なのか？全て遠隔でできるということか？

(三上) 他の専門学校や大学がどの程度かの情報ははっきりしないが、小中高はタブレット教育が始まっている。文科省や国交省の基準があるため、基本は対面授業を行う。その中でPCを利用した授業の効率化や学習効果の向上を目指しており、もしもの時にはオンライン授業にも対応できるように備える。

(下原) 実習でのソフトの操作や動画視聴などでのPC活用はイメージできるが、座学をPCでやっても学生は寝てしまうのでは。極端な話、(教員が教室に行かないで)職員室からでも授業は可能になるが、やはり受講態度などの学生管理が必要となる。

(阿部) オンライン授業では学生の管理は難しい。

(下原) 採用した高校教諭OBとは？高校で造園科があるのは？

(岩瀬) 当別高校を退職した先生。造園科があるのは岩見沢農業高校のみだった。

(松本) 若手の確保が必要です。学校が札幌工科の教員を目指す学生(委託生)を育てて卒業させ、20歳から実習助手にし、その後正式に登用する方法もあるのではないかと。

<令和4年度後期の報告と令和5年度の改善方針>

1 報告

- 1) ⑱要件を備えた教員の確保
- 2) ⑳学園祭等行事が行われていない。
- 3) ㉑定期試験、追試験の実施に困難を生じた。

2 改善方針

- 1) 2年制環境土木工学科、造園緑地科で各一名ずつ要件を備えた教員を確保する。

それまでは、IT化を促進させ教育及び業務の効率化を図る。専門教科担任制により、入学から

卒業まで一貫し教育指導を行うことにより、密度の高い教育を行う。

2) 3年間学園祭等は実施されていないことから、教育目標の確認・共有のうえ体制を組み実施する。

3) 単位取得にあたり本試験、不合格者に再試験・再々試験・特別試験を実施していたが、学生によっては期間中に再試験・再々試験を終了することが困難であった。そのため再々試験は実施せず、代わりに定期試験前に学習を促し受験をさせるとともに、万が一不合格の場合には再試験を受験する前に教科担任から指導を行ったうえで再試験を受験するように制度を変える。

委員の意見

(下原) 教員を集める具体策はあるのか？

(三上) 造園では、令和6年度に向けて、医療大学の植物園を管理している方を採用する目途が立っている。土木は1名採用できたが、年齢が60代である。IT化に対応できる若手を必要と考えている。

(下原) どの業種も人材不足で、大学でさえ不足している時代である。業界も互いにヘッドハンティングが行われている。北大も入学生だけでなく教員を確保するために、寒地土研、民間（特にコンサル）にも声をかけている。業界誌だけでなく、広く一般社会人も含めて発信した方が良いのではないか。建設業以外にも教育に興味を持っている層はいると考える。

IV 学修成果

<令和4年度前期の報告と令和4年度後期の改善方針>

1 退学及び休学者

[退学]

なし

[休学]

なし

2 資格取得及び就職状況

[資格]

| | | |
|------------------|---------------|--------------|
| ・2級造園技能士 | 7/7名合格(100%) | |
| ・2級造園技能士(学科のみ受験) | 1/1名合格(100%) | |
| ・2級園芸装飾技能士 | 受験者なし | |
| ・3級造園技能士 | 6/7名合格(85.7%) | ※1名学科試験のみ不合格 |
| ・3級園芸装飾技能士 | 7/7名合格(100%) | |
| ・3級ブロック建築技能士 | 4/4名合格(100%) | |
| ・2級土木施工管理技士(1次) | 後期 34名受験 | |
| ・2級造園施工管理技士(1次) | 後期 17名受験 | |
| ・2級管工事施工管理技士(1次) | 後期 6名受験 | |
| ・2級建築施工管理技士(1次) | 後期 受験者なし | |
| ・2級ビオトープ施工管理士 | 9名受験 | |
| ・生物分類技能検定3級 | 1/4名合格(25%) | |
| ・エクステリアプランナー2級 | 受験者なし | |
| ・グリーンマスター認定試験 | 2名受験 | |
| ・技術士補(土木・森林) | 7名受験 | |

[就職]

学生の就職志望状況

| 学 科 | 学生数 | うち、 企業委託 | うち、民間企業 (委託生含む) | うち、 公務員 | 就職を 希望しない |
|------------------|-----|-------------|--------------------|------------|--------------|
| 環境土木工学科 2 年 | 19 | 0 | 6 | 12 | 1 |
| 造園緑地科 2 年 | 15 | 0 | 7 | 8 | 0 |
| 測量情報科 | 18 | 16 | 18 | 0 | 0 |
| 環境土木・造園施工管理 科 | 23 | 23 | 23 | 0 | 0 |

- ・ 国家公務員 (一般・大卒・土木) 最終合格 2名
- ・ // (一般・大卒・林学) 最終合格 2名
- ・ // (一般・高卒・技術北海道) 最終合格 3名
- ・ // (一般・高卒・林業) 最終合格 1名
- ・ // (一般・社会人・技術北海道) 最終合格 1名
- ・ // (一般・社会人・農業土木) 最終合格 2名
- ・ 北海道職員 (総合土木A) 第1回 最終合格 1名
- // 第2回 1次合格 1名
- ・ // (総合土木B) 最終合格 4名
- ・ // (林業B) 最終合格 3名
- ・ 滝川市 土木 最終合格 1名
- ・ 札幌市 (短大の部) 土木 1次合格 1名 → 2次不合格
- ・ 石狩市 土木 最終合格 1名
- ・ 江別市 土木 1次合格 2名 → 2次補欠合格 1名
- ・ 小樽市 土木 1次合格 1名
- // 社会人 1次合格 1名
- ・ 弘前市 行政 1次合格 1名
- ・ 民間企業 環境土木工学科 内定 5名
- 造園緑地科 内定 2名
- 測量情報科 内定 1名
- ・ 企業委託生 39名

委員の意見

特になし

<令和4年度後期の報告と令和5年度の改善方針>

1 退学及び休学者

[退学]

なし

[休学]

なし

2 資格取得及び就職状況

[資格]

- ・ 2級造園技能士 7 / 7名合格 (100%)
- ・ 2級造園技能士 (学科のみ受験) 1 / 1名合格 (100%)
- ・ 2級園芸装飾技能士 受験者なし

| | | |
|--------------------|-----------------------|--------------|
| ・ 3級造園技能士 | 6 / 7名合格 (85.7%) | ※1名学科試験のみ不合格 |
| ・ 3級園芸装飾技能士 | 7 / 7名合格 (100%) | |
| ・ 3級ブロック建築技能士 | 4 / 4名合格 (100%) | |
| ・ 2級土木施工管理技士 (1次) | 後期 32 / 34名合格 (94.1%) | |
| ・ 2級造園施工管理技士 (1次) | 後期 17 / 17名合格 (100%) | |
| ・ 2級管工事施工管理技士 (1次) | 後期 0 / 2名合格 (0%) | ※4名欠席 |
| ・ 2級建築施工管理技士 (1次) | 後期 受験者なし | |
| ・ 2級ビオトープ施工管理士 | 9名受験 | |
| ・ 生物分類技能検定3級 | 1 / 4名合格 (25%) | |
| ・ エクステリアプランナー2級 | 受験者なし | |
| ・ グリーンマスター認定試験 | 2名受験 | |
| ・ 技術士補 (土木・森林) | 森林部門2名合格 | |

[就職]

学生の就職決定状況

| 学 科 | 学生数 | うち、 企業委託 | うち、民間企業 (委託生含む) | うち、 公務員 | 就職を 希望しない |
|------------------|-----|-------------|--------------------|------------|--------------|
| 環境土木工学科2年 | 19 | 0 | 7 | 11 | 1 |
| 造園緑地科2年 | 15 | 0 | 7 | 7 | 1 |
| 測量情報科 | 18 | 16 | 18 | 0 | 0 |
| 環境土木・造園施工 管理科 | 23 | 23 | 23 | 0 | 0 |

| | | |
|--------------------|------|-----------------|
| ・ 国家公務員 (一般・大卒・土木) | 最終合格 | 2名 |
| ・ " (一般・大卒・林学) | 最終合格 | 2名 |
| ・ " (一般・高卒・技術北海道) | 最終合格 | 3名 |
| ・ " (一般・高卒・林業) | 最終合格 | 1名 |
| ・ " (一般・社会人・技術北海道) | 最終合格 | 1名 |
| ・ " (一般・社会人・農業土木) | 最終合格 | 2名 |
| ・ 北海道職員 (総合土木A) | 第1回 | 最終合格 1名 |
| ・ " | 第2回 | 最終合格 1名 |
| ・ " (総合土木B) | 最終合格 | 4名 |
| ・ " (林業B) | 最終合格 | 3名 |
| ・ 滝川市 | 土木 | 最終合格 1名 |
| ・ 札幌市 (短大の部) | 土木 | 1次合格 1名 → 2次不合格 |
| ・ 石狩市 | 土木 | 最終合格 1名 |
| ・ 江別市 | 土木 | 最終合格 1名 |

| | | | | |
|--------|---------|------|----|--------|
| ・小樽市 | 土木 | 1次合格 | 1名 | →2次不合格 |
| 〃 | 社会人 | 最終合格 | 1名 | |
| ・弘前市 | 行政 | 1次合格 | 1名 | →2次不合格 |
| ・民間企業 | 環境土木工学科 | 内定 | 7名 | |
| | 造園緑地科 | 内定 | 7名 | |
| | 測量情報科 | 内定 | 2名 | |
| ・企業委託生 | 39名 | | | |

委員の意見

(下原) 社会人で本校を受験する人は、本校をどのように知ったのか？

(三上・阿部) インターネット検索、親戚の紹介。

(下原) 社会全般で離職率が上がっているのので、今後、離職者の受け皿として専門学校への社会人の入学が増えるのではないかと予測している。ホームページがきっかけであれば、社会人用のページを整えてはどうか。

(岩瀬) 造園緑地科の卒業生の中では、給付金の関係でハローワークからの紹介がきっかけの学生が4名いた。

V 学生支援

<令和4年度前期の報告と令和4年度後期の改善方針>

①経済的支援

「学校独自の授業料免除制度」「国の修学支援新制度（給付奨学金＋入学金・授業料免除）」、「専門実践教育訓練給付金（社会人）」、「長期高度人材育成コース（社会人）」が利用できる。

※長期高度…2年制で専門士の取れる課程が対象で、2年間の学費を北海道が負担し、生活費も支給される制度。本人は教科書・教材・諸経費のみ負担する。

参考 北の森づくり専門学院

学費 17万1520円（別途、教材・被服、資格取得費が必要）

「緑の青年就業準備給付金」…在学中の最長2年間で約114万円支給され、卒業後林業分野に就職すれば返済不要となる制度。

②コロナ禍支援

対面授業を基本とし、出校停止の学生に対してはオンライン授業を受講できる体制である。下宿の学生が陽性となり、帰省が難しい場合には、療養場所の提供も可能である。

③就職後支援

卒業生から資格試験の相談がある。過去問題の提供や答案の添削などを行っている。

④社会人教育の実施

社会人入学者の中にも、学費の助成を受けながら通っているにも関わらず就業意識の低い学生がいる。就職指導の段階より前の相談に乗っている。

委員の意見

(下原) 長期高度人材育成コースの条件はどのようなものか？本校の入学試験時期と合うのか？社会人対象か？条件は厳しいものなのか？

(三上) 資格を取って就職したいという人がハローワークに行って紹介される。本校の入学試験と同様の内容で選考するが、試験日は別途設定している。在学中は毎月出欠報告を行い、本校卒業後も半年の就職定着支援も必要。

(下原) 学校独自の学費免除制度はどのくらい利用されているのか？

(三上) 在校生の9割が何らかの制度を利用している。

<令和4年度後期の報告と令和5年度の改善方針>

①経済的支援

「学校独自の授業料免除制度」「国の修学支援新制度（給付奨学金＋入学金・授業料免除）」、「専門実践教育訓練給付金（社会人）」、「長期高度人材育成コース（社会人）」が利用できる。

「長期高度人材育成コース」で令和5年度環境土木工学科2名を募集したが、応募者がいなかった。

②企業が利用できる「人材開発支援助成金」に新しいコース「事業展開等リスクリング支援コース」が創設された。従来よりも助成率がUPすることから、企業に周知しているところである。

委員の意見

（下原）北の森専門学院には助成金があるので、建設省でも助成金の創設を検討しているようだが、まだ返答はない。国の方針で教育、子供支援が進められると思うが、今後、私学にはどのくらい補助があるのか不透明である。ますますギャップが生まれる懸念がある。

VI 教育環境

<令和4年度前期の報告と令和4年度後期の改善方針>

①ITインフラの整備

Ⅲ教育活動に同じ

②最新機材の整備

土木ではGNSS測量機器、電子平板、3次元測量ソフト、AutoCADなどを使用して授業を行っている。造園ではRIKCADを導入し、オンライン講習で操作方法を学習している。卒業演習の一部で活用を始めた。

③第一校舎の改修

8月～10月に実施し終了した。屋上庭園の撤去、防水、非常階段の防錆塗装と防雪ネット設置、外壁・目地の塗装などが行われた。

委員の意見

特になし

<令和4年度後期の報告と令和5年度の改善方針>

1) 令和6年度の1人1台ノートパソコン保有に向けWi-fi環境、教材のデジタル化、教務系ICT化を行ってきた。本年度3月にWi-fi環境の設定は終了する。次年度、教材のデジタル化、教務系ICT化をすすめる。

2) 学生増加に伴い教室及び実習室の不足が懸念される。

委員の意見

（下原）教室・実習室の不足について、会館の活用は考えているのか？

（三上）まだ会館の整備が十分でないが、必要があれば活用したい。

（下原）小学校でも1人1台パソコンを持つ時代で、我々よりもうまく活用できる。IT化は早め早めに進めた方が良い。

（阿部）土木実験を2班に分けて行っているが、土木実験室の収容人数がギリギリの状況である。

（下原）建物は使わないと痛むので、会館の活用を考えた方が良い。

(三上) 会館活用の 1 つで、最終手段としてコロナ陽性者が寝泊まりできる準備は整えている。原則は自宅(実家)療養、ホテル療養とする。

(奥内) 造園協会は技能士を育成している。造園会社としても若手の獲得が厳しい状況である。学生には早い段階から 3 級・2 級を受けてもらい、関心を高めてもらっている。採用枠を増やしているが、なかなか受験されない。造園会社によっては十分に教育体制が整っていない場合もあるが、2 級を合格している人はある程度仕事についてくることが評価されている。離職もしにくい。

技能士実技試験を Youtube 視聴により独学で受験した方もいたが、合格基準に照らすと低い評価だった。IT 化を進める風潮があるが、造園技術は実際に目で見ないと継承できないと考える。

Ⅶ 学生の受け入れ募集

<令和4年度前期の報告と令和4年度後期の改善方針>

(11月12日現在)

| 学科\入学年度 | | H30 | H31 | R2 | R3 | R4 | R5 |
|----------------------|--------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|----|
| 環境土木 工学科 | 体験参加数 | 33 | 37 | 23 | 34 | 22 | 27 |
| | 出願数 | 29 | 33 | 19 | 23 | 19 | 15 |
| | 入学数/定員 | 26/25名 | 23/25名 | 15/25名 | 21/25名 | 17/25名 | |
| | 定員充足率 | 104% | 92% | 60% | 84% | 68% | |
| | 委託生の割合 | 1/26名 3.8% | 4/23名 17.4% | 2/15名 13.3% | 0/21名 0% | 4/17名 23.5% | |
| 造園緑地科 | 体験参加数 | 15 | 8 | 12 | 26 | 13 | 11 |
| | 出願数 | 10 | 5 | 2 | 18 | 9 | 5 |
| | 入学数/定員 | 8/20名 | 5/20名 | 2/20名 | 17/15名 | 8/15名 | |
| | 定員充足率 | 40% | 25% | 10% | 113% | 53.3% | |
| | 委託生の割合 | 0/8名 0% | 0/5名 0% | 0/2名 0% | 0/17名 0% | 0/8名 0% | |
| 測量情報科 | 体験参加数 | 6 | 17 | 10 | 11 | 13 | 17 |
| | 出願数 | 15 | 15 | 15 | 16 | 20 | 14 |
| | 入学数/定員 | 12/10名 | 14/10名 | 15/10名 | 15/15名 | 18/15名 | |
| | 定員充足率 | 120% | 140% | 150% | 100% | 120% | |
| | 委託生の割合 | 9/12名 75% | 13/14名 92.9% | 15/15名 100% | 15/15名 100% | 16/18名 88.9% | |
| 環境土木・ 造園施工 管理科 | 体験参加数 | 7 | 8 | 19 | 5 | 8 | 17 |
| | 出願数 | 22 | 20 | 33 | 21 | 23 | 14 |
| | 入学数/定員 | 20/10名 | 18/10名 | 30/10名 | 20/15名 | 22/15名 | |
| | 定員充足率 | 200% | 180% | 300% | 133% | 146.7% | |
| | 委託生の割合 | 20/20名 100% | 16/18名 88.9% | 30/30名 100% | 17/20名 85% | 22/22名 100% | |
| 全体 | 体験参加数 | 61 | 70 | 64 | 65 | 56 | 72 |
| | 出願数 | 76 | 73 | 69 | 78 | 71 | 48 |
| | 入学数/定員 | 66/65名 | 60/65名 | 62/65名 | 73/70名 | 65/70名 | |
| | 定員充足率 | 101.5% | 92.3% | 95.4% | 104% | 92.9% | |
| | 委託生の割合 | 30/66名 45.5% | 33/60名 55% | 47/62名 75.8% | 32/73名 43.8% | 42/65名 64.6% | |

道外の受験者

環境土木工学科・・・岩手県 1 名

造園緑地科・・・鹿児島県 1 名

委員の意見

(下原) 測量情報科にゼネコンから入る人はいるのか？

(三上) そうけん、ハヤカワ建設から委託生の応募があった。

(岩瀬) 企業委託生の割合を比較すると、造園緑地科には企業委託生がいない。本校のカリキュラムでは造園系の科目も多く、実習や技能士試験にも取り組んでいるが、学生が希望しない傾向がある。のちの教育課程編成委員会でも議論したい。学生の中で「造園」のイメージのとらえ方に幅がある。

＜令和4年度後期の報告と令和5年度の改善方針＞

| 学科\入学年度 | | H30 | H31 | R2 | R3 | R4 | R5 |
|----------------------|--------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|
| 環境土木 工学科 | 体験参加数 | 33 | 37 | 23 | 34 | 22 | 31 |
| | 出願数 | 29 | 33 | 19 | 23 | 19 | 23 |
| | 入学数/定員 | 26/25名 | 23/25名 | 15/25名 | 21/25名 | 17/25名 | 19/25名 |
| | 定員充足率 | 104% | 92% | 60% | 84% | 68% | 76% |
| | 委託生の割合 | 1/26名 3.8% | 4/23名 17.4% | 2/15名 13.3% | 0/21名 0% | 4/17名 23.5% | 2/19名 10.5% |
| 造園緑地科 | 体験参加数 | 15 | 8 | 12 | 26 | 13 | 12 |
| | 出願数 | 10 | 5 | 2 | 18 | 9 | 9 |
| | 入学数/定員 | 8/20名 | 5/20名 | 2/20名 | 17/15名 | 8/15名 | 9/15名 |
| | 定員充足率 | 40% | 25% | 10% | 113% | 53.3% | 60% |
| | 委託生の割合 | 0/8名 0% | 0/5名 0% | 0/2名 0% | 0/17名 0% | 0/8名 0% | 0/9名 0% |
| 測量情報科 | 体験参加数 | 6 | 17 | 10 | 11 | 13 | 18 |
| | 出願数 | 15 | 15 | 15 | 16 | 20 | 22 |
| | 入学数/定員 | 12/10名 | 14/10名 | 15/10名 | 15/15名 | 18/15名 | 21/15名 |
| | 定員充足率 | 120% | 140% | 150% | 100% | 120% | 140% |
| | 委託生の割合 | 9/12名 75% | 13/14名 92.9% | 15/15名 100% | 15/15名 100% | 16/18名 88.9% | 21/21名 100% |
| 環境土木・ 造園施工 管理科 | 体験参加数 | 7 | 8 | 19 | 5 | 8 | 17 |
| | 出願数 | 22 | 20 | 33 | 21 | 23 | 24 |
| | 入学数/定員 | 20/10名 | 18/10名 | 30/10名 | 20/15名 | 22/15名 | 24/15名 |
| | 定員充足率 | 200% | 180% | 300% | 133% | 146.7% | 160% |
| | 委託生の割合 | 20/20名 100% | 16/18名 88.9% | 30/30名 100% | 17/20名 85% | 22/22名 100% | 22/24名 91.7% |
| 全 体 | 体験参加数 | 61 | 70 | 64 | 65 | 56 | 78 |
| | 出願数 | 76 | 73 | 69 | 78 | 71 | 78 |
| | 入学数/定員 | 66/65名 | 60/65名 | 62/65名 | 73/70名 | 65/70名 | 73/70名 |
| | 定員充足率 | 101.5% | 92.3% | 95.4% | 104.3% | 92.9% | 104.3% |
| | 委託生の割合 | 30/66名 45.5% | 33/60名 55% | 47/62名 75.8% | 32/73名 43.8% | 42/65名 64.6% | 45/73名 61.6% |

1年制施工管理科は全てが土木コースを希望しており造園コースの希望者はいない。造園建設企業へのアンケートによると、工事受注の観点から土木工事を主体とした造園施工管理技士が必要であることから、造園コースでは土木工事を中心に科目を設定し施工監理技術者養成に特化する。在学中に2級土木および造園施工管理技術検定1次試験の取得が可能なカリキュラムの編成を行い、造園コースへの企業委託生を募る。1年制と2年制の役割を再度明瞭にする。

委員の意見

(下原) 体験参加者のうち出願しなかった方の理由は？

(三上) 大学、北の森専門学院、友達の同伴など。

(下原) 経済的負担で進学を諦めている人もいるのではないか。

(三上) 独自の学費免除が多くに利用されている。造園の方はハローワークの助成金も活用されている。

(下原) 土木の方はハローワークの助成金は使えないのか。

(亀田補足) 環境土木工学科は測量士補が取れる学科であり、測量士補が取れる学科は1年制のみが助成金の要件となっているため、使うことができない。

VIII 財務

<令和4年度前期の報告と令和4年度後期の改善方針>

①入学生の確保

在校生100名(過去最高)であり、今年度はこれまで退学者は出ていない。

2年制の学生増加を目指し活動する(Ⅱ学校運営)

②社会人教育

一般企業の方からの依頼で、学校付帯事業として樹木医試験対策の講習を行った。

全8回、受講者2名。

③教職員の協働

担任クラスの持ち替え、教科担当の変更、他分野の勉強を分担して行っているところ。熟練教員の退職時期が迫る中、現スタッフで継承に取り組んでいるが負担が感じられる。

④感謝祭

11月23日に感謝祭で農産物の販売を予定している。

委員の意見

(嘉屋) 社会人教育というのは依頼すればやってもらえるのか？

(岩瀬) 学校付帯事業として相談に乗ることは可能。

(三上) この他に、北海道職員、北海道建設技術センターの技術研修も請け負っている。

<令和4年度後期の報告と令和5年度の改善方針>

1) 入学生の確保

2年制の学生増加をめざすとともに、1年制造園コースの学生増加を目的として1年制環境土木・造園施工管理科の学生増加を目指し活動する。

2) 教職員の協働

専門教員による担任クラスの一貫的教育体制にすることで教育密度を上げるとともに、IT化により業務の効率を図る。本校の教育目標を担える若手の人材を確保する。

委員の意見

特になし

Ⅹ 法令等の遵守

＜令和4年度前期の報告と令和4年度後期の改善方針＞

①カリキュラムの履行

コロナの影響はあるが、補講、時間割変更で所定の授業時間の履行がなされている。一部学校行事を行うことができなかったため、実施するための案を考えていきたい。

②学校運営体制強化

Ⅷ財務③に同じ

③交通事故ゼロ、事故災害ゼロ

大きな事故はないが、業務が重なると集中できない場面があり事故を懸念している

④ハラスメントゼロ

適時、校長から助言指導がある。一部学生から教員に対し不満の声があったが、教員・学生それぞれ面談を行い、誤解の解消に至った。

⑤働き方改革

イーエス総合研究所のグループではあるが、学校という特性上、同じにはならない。少ないスタッフの中で調整を行っているが、体験入学、入学試験、ハウス管理などで休日出勤があり、平日は授業があるため代休が取れない。生産性の上がる働き方の構築に、工夫が必要である。

⑥CPD 研修

各自専門分野に関しては自己研鑽を行っている。平日の講習に参加する時間が取れない。協会誌の購読やオンデマンド配信の受講など。

委員の意見

（岩瀬）教育 ICT、教育のためのソフト、出欠管理、教務など、オンラインに乗せ換えているところ。学生との連絡も slack などインターネットを使用している。更なる授業内でのインターネット活用、学校業務での活用について、イーエスのネットワーク再構築に合わせて進めている。ただし、オンライン授業のあり方については文科省や地理院の規程に則る必要がある。

＜令和4年度後期の報告と令和5年度の改善方針＞

- 1) ポストコロナでは、対面授業を主とし緊急災害時など登校が出来ない場合等において遠隔授業などを利用し適正にカリキュラムを履行したい。
- 2) 車移動などが予定されているが、あくまでも第一に安全に配慮した計画を立てる。安全に配慮できない場合は、内容変更など他の計画を考える。
- 3) 4月から勤怠管理システムが稼働することに伴い、就業規則の変更が行われる。その中で IT 化や機械化などで生産性の上がる方法を構築していく。

委員の意見

特になし